



狛江市コミュニティ・スクール
イメージキャラクター
コミュにゃん

コミュニティ・スクール通信 NO.6

～ 二中ゾーンの学校運営協議会～

発行/令和4年11月

発行者/学校教育課

担当/地域学校連携支援マネージャー石谷

狛江市におけるコミュニティ・スクール（CS）の周知と推進を図るため、「コミュニティ・スクール通信」と題して、シリーズ（月1回発行）でお知らせします。

学校運営協議会がより力強く動けるように

狛江市の学校運営協議会は、初年度ということで、年3回の実施を想定しています。この3回は委員全員が一堂に集まる全体会で、委員は、ゾーンごとに工夫した活動を常時行っています。

二中ゾーンの場合は、第一回学校運営協議会で推薦、承認された会長（1名）、副会長（2名）が、第一回学校運営協議会での話し合いを整理して、今後の進め方について代表校長に相談しながら考えています。また、事務局である3校（二中、三小、六小）の副校長は、具体的な日程調整や開催までの委員に対するアンケート調査等の準備を進めていました。

3校の副校長は、今年度からコミュニティ・スクールが始まることを見据えて、1年前から副校長会を立ち上げて、月1回の話し合いの機会を作っていました。これにより、意思疎通のとれた話し合いができるようになったそうです。

学校運営協議会は、学校運営に参画し学校運営を支える、学校、保護者、地域の方々の合議体です。そして、その話し合いをスムーズに進め、熟議できるように、水面下では様々なことが話し合われて準備されています。



ゾーン代表校長と事務局

二中の校長は、二中ゾーンの代表校長です。事務局の副校長とともに、会長、副会長と第一回学校運営協議会の内容を振り返っています。協議会での反省を踏まえて、次回以降の流れを確認していました。

会長、副会長会

会長、副会長は、学校運営協議会として、学校や地域を動かしていく具体的な取組みを計画・実施していくことは大切だが、まず「義務教育を修了したときの子どもの姿、ゾーンの特徴」をさらに熟議して共通理解することが大切と考えていました。



ゾーン副校長会

ゾーンの3人の副校長は、会長、副会長の話し合いや、ゾーンの校長会の話し合いを受けて、具体的な第二回学校運営協議会の日程調整や会議がスムーズに進行するための準備について進めていました。当日は、司会の役割もあり、話し合いの着地点も視野に入れながら、「すべてが、二中ゾーンの子どもたちのために」と、熱く語られていました。

